

科学研究費報告書

獣医学教育の抜本的改善の方向と方法に関する研究

平成11年～12年度科学研究費補助金
課題番号 11306022 基盤研究(A)(1)
研究代表者 東京大学農学生命科学研究科教授
唐木 英明

研究分担者 (私立担当第8班 班員)
日本大学生物資源科学部教授
渡部 敏

はじめに

「獣医学教育の抜本的改善の方向と方法」について、日本大学生物資源科学部獣医学科の教育理念に基づいて調査、検討し獣医学教育の充実を計った。

本学における獣医学教育の理念

動物疾病の診断、治療、予防、公衆衛生への貢献を主たる目的としてきた獣医学は、最近では伴侶動物を介した対人福祉、野生動物の保護、国際化間の疾病予防、畜産食品の安全性の確保等、その学問領域は拡大し多岐に亘っている。このように広範な職域において獣医師として円滑な活動を行うため、高度で最新の専門知識と技術、加えて高い教養に裏付けられた深い人間性が要求される。このような獣医師を養成するため本学では、特定の分野に偏らないカリキュラムを編成し、最新の設備を学生に提供し、充実した実験実習の実施を推進する。

活動状況と結果

1. 私立獣医学系5大学の教育改善と、それに伴う学費値上げ等の問題に対する受験生の意識を把握するため私立獣医科大学担当第8班によるアンケートを実施した。調査は専門業者に委託した。調査方法は、獣医学部・学科を志望している全国の高校3年生を調査対象者とし郵送法によった。調査期間は1999年12月10日～12月31日。

2. 私立獣医科大学担当8班会議(第1回～第6回)の意向に添って、以下の委員会および臨床セミナーを設置した。

1) 獣医学科カリキュラム検討委員会

獣医学教育の充実と国際化に向けカリキュラムの大幅な見直しを行った。

委員

基礎系(解剖学・組織発生学・生理学・生化学・薬理学・微生物学・病理学)

教授1、助教授1、講師1、助手1。

臨床系(内科学・第二内科学・外科学・臨床繁殖学・放射線学・寄生虫学・臨床病理学・総合臨床獣医学)家畜病院長(アニマルメディカルセンター

(ANMEC)長) 教授1、助教授2、講師2、助手1。

応用系(公衆衛生学・伝染病学・衛生学・実験動物学(1、2)・魚病学)教授

1、助教授2、講師1。

2) 獣医学科臨床系カリキュラム検討委員会

特に臨床教育科目の見直しと充実について検討した。また、臨床教育の充実を計るため従来通りワシントン州立大学と単位互換を継続し、更に平成13年度から同大学獣医学部準教授を非常勤講師として委嘱し外国人による講義と実習の実施を決定した。

委員

臨床系 家畜病院長(アニマルメディカルセンター(ANMEC)長) 教授1、助

教授2、講師2、助手2。

3) 獣医学科国際化連絡委員会

獣医学教育の国際化に関する情報の収集とその対応について検討した。

委員

基礎系 教授2、助教授2。

臨床系 家畜病院長（アニマルメディカルセンター（ANMEC）長）、教授 1、助教授 3。

応用系 教授 2、助教授 2。

総括 学科主任・大学院専攻主任・教授 3。

4) 獣医学教育の横断的評価委員会

本学と同僚他大学の評価を比較検討した。

委員

基礎系 教授 1、助教授 2。

臨床系 家畜病院長（アニマルメディカルセンター（ANMEC）長）、教授 1、助教授 3。

応用系 教授 2、助教授 2、講師 1。

総括 教授 4。

5) 教育充実費検討委員会

解剖体経費を始め教育に必要な物品の購入について、具体的に検討し決定した。

委員 各研究室から代表 1 名。

総括 教授 1。

6) 獣医学科共通施設設備検討委員会

動物診療施設（家畜病院）の増築、獣医学科共通機器室の整備と拡張、教育研究用大型機器の購入について具体的に検討し決定した。なお、平成 13 年度の大規模機器の購入も既に決定している。

委員 各研究室から代表 1 名。

総括 教授 1。

7) ANMEC (アニマルメディカルセンター)セミナー

臨床セミナーとして症例報告および教育講演を毎月 1 回行っている。臨床系は元より基礎系、応用系の教員および学生も自由に参加出来る。

まとめ

1. 私立獣医系5大学志望者アンケート

アンケートの結果は、調査対象：高校3年生、依頼数2,000、回収数300、有効サンプル数300であった。特に志望校を決める際の要件としては、第1位：教育施設の充実、次に授業料、教員の授業レベル、教員の研究レベル、所在地の順であった。学納金値上げに対しては、賛成約60%、反対40%であった。値上げ反対の理由は、「学びたくても、経済的に学べなくなる」が最も多かった。教育内容については、臨床系約73%、基礎系18%、応用系7%、他無回答の順で臨床教育に最も期待していることが明らかになった。私立5大学間での単位互換については、実施を望んでいるが約60%と高いことが分かった。将来の進路については、小動物臨床約62%、野生動物関係約47%、産業動物臨床22%、大学院進学21%、次に外国留学、国家・地方公務員、外国で働く、国際協力、企業、その他で（複数回答）、大半が臨床関係を希望していることが判明した。

2. 委員会の設置

獣医学教育の充実を推進するために、本学科では、基礎系、臨床系および応用系の三分野の教員代表で構成する獣医学科カリキュラム検討委員会、獣医学科臨床系カリキュラム検討委員会、獣医学科国際化連絡委員会、獣医学教育の横断的評価委員会、教育充実費検討委員会、獣医学科共通施設設備検討委員会等を設置してこれに当たっている。

3. カリキュラム

国際化、社会の要請、「獣医学教育に関する基準」に対応した大幅な改正を行い平成12年度より実施している。また、ワシントン州立大学と単位互換を行っている。

4. 教員

平成9年2月、大学基準協会より示された「獣医学教育に関する基準」に到達するため、先ず、教員の充実から取り組んだ。取り敢えず4年計画で教員数を55名に増員すべく、平成11年度に4名、12年度に4名新規採用した。また、平成13年度には外国人（ワシントン州立大学獣医学部準教授）を非常勤講師として採用し、臨床系の講義と実習の実施を決定した。

5. 施設

動物診療施設(家畜病院)の増築(約200平米)を計り、平成12年9月30日、竣工した。なお、平成14年度には本館竣工に伴って実習室、教室、研究室、共通機器室等の整備と拡充がなされることになっている。

6. 設備

獣医学科共通機器室を整備、拡張し教育研究用大型機器を購入した。

7. その他

獣医学教育の充実を実現するためには、獣医学科教員は勿論、本学部執行部、事務局、他 10 学科の教職員の理解が必須であり、平成 12 年 7 月 19 日、「獣医系大学の再編と展望」と題し、東京大学唐木英明教授による講演会を実施し理解を求めた。また、ANMEC (アニマルメディカルセンター) セミナーは、臨床獣医学教育の一翼を担うものと考えられる。

以上